

社会科学習指導案

学 級： 3 年 1 組 29人
場 所： 3 年 1 組 教 室
指導者： 教 諭 阪本 晃年

1 単元名 「くらしと経済」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、「私たちの暮らしと経済」の第1節にあたり、消費、流通、生産についての基本的な社会的事象を取り上げ、経済活動の意味や意義を身近な生活と結びつけて学習していく。学習指導要領では、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目させるとともに、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解させることを主な目的としている。また、消費者の保護については、消費者の自立の支援なども含めた消費者行政を取り扱うこととしている。

これらは日常の生活の中で行われていることであり、生徒にとってもイメージがしやすい領域でもある。学習指導要領のねらいをふまえながら、経済に対する関心を高めさせ、賢い消費生活の在り方や消費者としての自立について考えさせていきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的に落ち着いてしっかりとした学習態度で授業に臨み、教師の指示を素直に聞き、作業にもまじめに取り組むことができている。また、新聞・ニュース等で報道されている時事問題に対して、高い関心を示し、それに対する自分の考えを積極的に発言したりする生徒も見られる。

その一方で、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や、資料をもとに思考を高め、自分の考えを整理して発表する能力がすべての生徒に十分に身につけているとは言えず、これらの能力を高めることについては課題が見られる。また、平成24年度「基礎・基本」定着度調査においては、社会的な思考・判断・表現および社会的事象についての知識・理解の観点において、課題が見られた。これらのことから、社会的事象における基礎的な知識を身に付けさせるとともに、社会的事象について多面的・多角的に考察したりする力を高めていくことが、今後の教科指導における課題であると考えている。

(3) 指導観

指導にあたっては、身近な事例に基づく学習活動やシミュレーションなどの様々な学習活動を通して、経済に対する関心を高めさせ、暮らしと経済の関係に気付かせるようにする。そして、経済に関する統計資料をはじめとした資料の収集・選択、読解等を通じて、主体的に課題を解決していこうとする態度を養わせる。

また、課題解決的な学習を充実させるために、ワークシートを用いながら課題に対する予想・仮説を立てさせるとともに、各指導過程において目的に応じた発問を工夫することによって言語活動を充実させ、生徒の思考力・判断力・表現力を高める学習指導を行っていきたい。

3 単元の指導目標

- 家計についてのシミュレーションや、広告や消費者問題についての調査活動などを通して、自分の消費活動をふり返らせ、経済への関心を高めさせる。
- 消費生活や流通に関する様々な事例をもとに、経済活動における選択や、消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考えさせ、その過程や結果を適切に表現させる。
- 消費生活に関する課題や消費者問題について、事例や統計資料を収集し、読み取らせるとともに、その解決策について自分の考えをまとめさせる。
- 身近な消費生活をもとに、自分たちの生活と経済との関連に気付かせるとともに、消費者の権利と契約、消費者問題、流通の役割などの経済活動の意義について理解させる。

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
① コンビニエンスストアの立地と品ぞろえについて考えるシミュレーションに意欲的に取り組み、経済への関心を深めている。 ② 家計についてのシミュレーションや、広告や消費者問題についての調査活動などを通して、自分の消費活動をふり返って、自立した消費者を目指そうとしている。	① 消費生活や流通に関する様々な事例をもとに、経済活動における選択や、消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。 ② 消費者の権利の実現を妨げる消費者問題について、原因や対応、解決方法などを具体的に考え、議論している。	① 消費生活に関する課題や消費問題について、事例や統計資料を収集し、読み取るとともに、その解決策についての自分の考えをまとめている。 ② 流通の仕組みや流通の合理化のための取り組みについて、具体的な事例を収集し、図表などにまとめている。	① 身近な消費生活をもとに、自分たちの生活と経済との関連に気付くとともに、経済活動の意義について理解している。 ② 消費者の権利と契約、消費者問題流通の役割について理解し、その知識を身に付けている。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導の流れ	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーションを通して、学習意欲を高め、経済に興味・関心を持たせる。 ・ 経営者の視点から、消費者の消費行動を考えることで、生活と経済の関係、経済活動における限られた資源と選択の関係に気付かせる。 	アの① イの①
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な事例を通じて、消費者が商品を購入する際、限られた資源をもとに選択していることに気付かせる。 ・ 将来の家計を予測し、検討することで、収入と支出のバランスとかしこい消費生活の在り方について考える。 	エの① イの①

3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の消費行動に対する広告の影響に着目させ、消費者主権について関心を持たせる。 ・ 消費者の権利と保護について、具体的な被害例や対応策などを通して考え、自分の考えを表現する。 	アの② イの① イの②
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な商品の流通経路に消費者として関心を持つ。 ・ 流通の仕組みや役割、流通の合理化の取組について調べ、理解する。 	アの② エの②

5 本時の判断基準の設定 (3/4)

評価規準	「社会的な思考・判断・表現」 <input type="checkbox"/> 日常の消費行動に与える広告の影響や、消費者問題についての考察を通して、消費者の権利と責任について表現している。
評価の場面	<input type="checkbox"/> 4時間構成の第3時における課題解決場面
評価の対象	<input type="checkbox"/> ノート・ワークシートの記述 <input type="checkbox"/> 発表の内容の観察
判断の要素	<input type="checkbox"/> ① 消費者の権利 <input type="checkbox"/> ② 消費者の責任

尺度	判断基準
B	<input type="checkbox"/> ① 消費者には、商品に安全を求める権利、知らされる権利などがあること。 <input type="checkbox"/> ② 消費者には、商品に関する知識や情報を広く収集し、判断する責任があること。 <hr/> 【予想される生徒の表現例】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者には、企業が生産する商品に安全を求める権利や製品の性質を知らされる権利などがある。また消費者は、商品に関する知識や情報を広く収集し、購入について適切に判断する責任を負っている。
A	Bに加えて、資源保護や環境保護などの視点から、消費の在り方について説明している。

6 本時の実際 (3/4)

(1) 題材名 「消費者の権利」

(2) 学習目標

- 日常の消費行動に対する広告の影響に着目し、消費者主権について関心を持つ。
- 消費者の権利と保護について、具体的な被害例や対応策などを通して考え、自分の考えを表現する。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

ア 学習課題の工夫

日常の消費生活における若者のトラブル等の資料を基にした身近な事例から、消費者として自分がとるべき行動や自分の考えを表現できるように学習課題を工夫する。

イ 発問の工夫

- (ア) 資料を基に、消費者が困っている理由を考えさせるための発問を工夫する。
- (イ) 消費生活における販売者と消費者の問題点を推測させる発問を工夫する。
- (ウ) 消費者にはどのような権利と責任があるのか、多様な考えを統合させるための発問を工夫する。

(4) 授業の展開

: 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	7分	一斉	1 現代社会にあふれる商品や、その広告の状況を把握する。 2 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【学習課題】 安心で安全な消費生活を送るために、消費者にはどのような権利と責任があるのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 商品を提示し、消費生活における広告の役割に着目させながら、消費者主権について考えさせる。 商品購入時に失敗した経験や後悔した経験を踏まえて学習課題を導く。 	視点ア 資料をもとにした身近な事例から、消費者として自分がとるべき行動や自分の考えを表現できるような学習課題を設定する。
展開	5分	一斉	3 消費者問題について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島市消費生活センター制作の資料を基に、特に若者に多いトラブルについて取り上げる。 	視点イー(ア) 資料から読み取れる情報を基にして、課題解決に迫るための発問の工夫を行う。 【事象の理由を考えさせる発問】 【推測させる発問】 【多様な考えを統合させる発問】
	10分	個・一斉	4 消費者問題や消費者の権利について考察する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <反応例> <ul style="list-style-type: none"> だまされる問題。 販売者が十分な情報を与えていない問題。 拒否できる権利。 十分な情報を与えられる権利。 契約を解除することができる権利。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> トラブルの原因や問題点を考えさせ、消費者にどのような権利があれば安心で安全な消費生活を送ることができるか考えさせる。 この事例において、消費者はなぜ困っているのですか。 販売者と消費者の問題点は何ですか。 商品を購入する際、消費者にどのような権利があればよいでしょうか。 	
展開	5分	個	5 消費者問題への行政の対応について調べる。 <input type="radio"/> クーリングオフ制度 <input type="radio"/> 製造物責任法（PL法） <input type="radio"/> 消費者基本法 <input type="radio"/> 消費者契約法 <input type="radio"/> 消費者庁の設置	<ul style="list-style-type: none"> 消費者保護のためにクーリングオフ制度や製造物責任法などが整備されていることに気付かせる。 この事例において、消費者は商品を購入しなければならないのでしょうか。 消費者を守るために、どんな制度や法律があるのでしょうか。 	【推測させる発問】
	10分	グループ	6 消費者の責任についてグループ内で議論する。	<ul style="list-style-type: none"> 事例における消費者側の問題点を踏まえて、消費者が果たすべき責任について考えさせ、説明させる。 この事例において、消費者の側に問題はなかったのでしょうか。 	視点イー(イ) 身近な生活と関連させて生徒の思考を促す発問の工夫を行う。 【新たな視点に気付かせる発問】
終末	13分	個一斉	7 学習課題に対するまとめをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 消費者には、企業が生産する商品に安全を求める権利や製品の性質を知らされる権利などがある。また消費者は、商品に関する知識や情報を広く収集し、購入について適切に判断する責任を負っている。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えさせた後、全体でまとめを行う。 消費者にはどのような権利と責任があるのでしょうか。 	視点イー(ウ) 判断基準を基にした学習課題解決のための発問の工夫を行う。 【多様な考えを統合させる発問】

(5) 検証の方法

ア 学習課題の工夫

消費者の持つ権利と責任について、生徒が資料を基に適切に考察し、的確に表現できる学習課題であったか（「判断基準」は適切であったか）について、ノートの記事から判断する。

イ 発問の工夫

- (ア) 消費者が困っている理由を適切に考えさせるための発問であったか、生徒の発表から判断する。
- (イ) 消費生活における販売者と消費者の問題点について推測できる発問であったか、生徒の発表から判断する。
- (ウ) 学習課題に対するまとめを行うにあたって、判断基準Bを踏まえた発問であったか、ノートの記事から判断する。